

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	通学バス運行事業	会計名称	一般会計		担当課	学校教育課	
		予算科目	10 款 1 項 2 目	事業番号	4090	所属長名	佐々木正孝
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	島川仁	
法令根拠等	伊予市通学バス等運行管理規程				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 学校教育環境の整備・充実					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	遠距離児童・生徒に対し通学バスを運行することで、安全・安心な学校づくりと教育環境の整備に寄与する。						
事業の対象	小学校児童、中学校生徒 (校区限定)			事業の目的	学校統・廃合等による遠距離児童・生徒に対し通学バスを運行することで、学校教育の適正・円滑な実施に貢献する。		
事業の内容 (整備内容)	南山崎・中山小学校児童、双海・中山中学校生徒の登・下校時に運行する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	34,417	35,483	0	0	0	33,484	運行日数 (双海中) 1 台	日	309	310	154	310
財源内訳												
国庫支出金		0	0	0	0	0	運行日数 (中山小・中) 3 台	日	990	996	472	921
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0						
一般財源	34,417	35,483	0	0	0	33,484						
職員の人工 (にんく) 数	0.15	0.15				0.15						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	35,614	36,682				34,683						
主な実施主体	市内運輸業者等		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		バス運行業務委託料 32,992千円 タクシー使用料 1,164千円							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	5年間の合計		
					42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	210,000		
成果指標	指標	運行日数実績/運行日数計画×100		単位	⇒	区分年度	前 年度	1 年度	2 年度	目標 毎 年度		
				%		目標	100	100	100	100		
	指標設定の考え方	関係者が協議して定めた安全・安心な運行計画であるため、計画通りの事業完遂を目標とする。				実績	100	94				
	指標で表せない効果											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		通学バスの運行体系の見直しを行った結果、次年度において双海中学校の生徒数がバスの定員をオーバーすることが分かる。次年度の運行体系を検討する必要がある。また、委託先の運転手が高齢となることにより、業務実施方法の見直しも必要となる。									
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点	本年度は、南山崎小・翠小・港南中・双海中において、人数に応じた適切な運行ができた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4						
	効率的	市民(受益者)負担の適正	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	南山崎小バス運行では、委託先の運転手の運転技術に問題があったため、委託先と協議を行い、運転手の見直しを行った。		
			コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3						
			市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3						
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A			事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 学校の統廃合及び敵路線バスの廃止に伴う通学通園手段の確保のための事業であり、利便性と安全性の確保のためには必要な事業であるため。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4							
効率的	市民(受益者)負担の適正	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所属長の課題認識	通学バス運転手の確保が困難になることが判明したことから、今後の事業運営について再考する必要がある。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3							

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>		

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	